



元気っ子

No 305 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

新年を迎えると「今年はこんな一年にしたい」など皆々がそれぞれに一年の目標であったり、抱負を掲げたりすることかと思えます。また、小さいお子さんをお持ちの保育園の保護者の皆様においては、「我が子にとってこの一年が」と願う気持ちは大きいのではないのでしょうか。子どもの幸せを願う親の気持ちというものは万国共通だと思えます。

そしてまた、保育の最上位の目標というのも、この「親の気持ち」に寄り添うものとなっています。保育所保育指針の保育の目標にはこのように書かれています。「子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、保育所の保育は、子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う…」とあります。キーワードを抽出しながら詳しく見ていくと、「生涯にわたる人間形成」というのは、その子が大人になっても継続して保持し続ける資質を意味しています。また、「望ましい未来をつくり出す力」というのは、人生を幸せに生き抜く力のことだと言えます。要は、「子どもが大人になって社会に出たときに、自分自身で幸せな未来を切り開いていく力を保育の中で培うこと」が保育の最上位の目標だということです。これは脳科学の研究からも立証されています。(下図参照) 決して、小学校中学校に行くためのプレスクールとして位置付けではありません。

それでは、子どもたちが大人になり、社会で活躍する時代はどんな時代になっているのでしょうか。卒園児が18歳の成人を迎えるのは12年後、社会で活躍し始めるのはおおよそ20年後くらいでしょうか。AI時代の到来は確実でしょうし、政府はこの時代を Society5.0 (創造社会) 時代として位置付けています。そして、この時代は約50%の職業が現在ではまだ存在していない職業として生まれているだろうと、オックスフォード大学のオズボーン教授がその研究の中で発表しています。裏を返せば、約50%の職業がAIによって占拠されてしまうということです。それに加えて、新型コロナウイルスの世界的パンデミックや東日本大震災のような未曾有の災害など予測不能な事象が起こる VUCA の時代が到来するとも言われています。そのような未来社会の中で「自分自身で幸せな未来を切り開いていく力」とはどんな力なのでしょうか。それは「批判的思考力(吟味力)」「共感性」「自己制御力」「レジリエンス」「好奇心」などといった非認知能力と呼ばれる力に注目が集まっています。つまり、もう一度、保育所保育指針の保育目標に立ち返りますが、「望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」とある通り、私達は保育を通して、こういった力が子どもたちの中に育つような環境を用意することを常に心掛けていなくてはならないということです。

2023年という新しい年を迎えるにあたって、保育所保育指針を読み返しながら、今一度その大切な保育目標を再確認しました。「三つ子の魂百まで」という諺が示す通り、乳幼児期の保育における重要性が益々注目され始めています。職員一同、この目標を日々確認し合いながら、新年をスタートさせていこうと思います。

